令和７年度　江戸川区立船堀学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考え　すすんで学ぶ子 ○さいごまでやりぬく子 ○思いやりのある　心豊かな子 ○たくましく　じょうぶな子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○子供が学びを通し、互いにかかわり合いながら思いを伝え合う学校 ○子供や保護者、地域の思いに寄り添った導きのできる学校 ○教職員が目標を共有し、互いの思いを伝え合い、新たな教育の創造ができうる学校 ○美しい学校（校内環境、言語環境の整った美しい学校）

前年度までの本校の現状	成果	全国学力調査及び全国体力調査において、国や都の平均を全て上回ることができた。体育科での校内研究を中心に進めた授業改善が他教科へも波及し指導観の変換が図れてきている。引き続き「個別最適な学び・協働的な学び」を推進していく。また、体育科の授業改善及び運動習慣の確率により、体力の向上に大きな成果が見られた。引き続き本成果を維持させていく。	課題	学力向上において、A層とB層とにおいて、算数科の活用力に格差が生じた。習熟度別においては、それぞれの実態に応じた指導を行うと共に「思考力・判断力・表現力」の向上をねらい、考えを説明する場や他者と協働して課題を解決すしていく場を意図的に組み入れる。体力の向上にあっては、ストレッチタイムの改善を図りマンネリ化を防止するとともに、船スポタイム及び体育科の学習の充実を図る。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	**○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実**	・区学力調査の実施と分析による個々の学習状況の把握し、個別の学習カルテを作成し、学習のつまずきの解消に活用する。 ・算数科においては習熟度別の課題に取り組み、中間層の底上げにつなげる。 ・一人一台端末を活用した個別最適な学習・協働的な学習を進める。	・東京ベーシックドリル診断テストにおけるC及びD層を10%削減させる。											
			・主体的、協働的な学びにかかわる児童意識調査の数値を向上させる。 ・中間層における勝町問題の正答率を70%以上にする。											
		・よむYOMUワークシートの活用 ・教科担任制の実施	・4年生15回、5・6年生30回のワークシートに取り組み読解力を育む。 ・教材研究、授業改善を進める。											
	○読書科の更なる充実	・朝読書における探究的な学習（調べ学習)を進める。 ・読書科、総合的な学習の時間を基に図書資料を活用した探究的な学習を進める。	・読書科ノートを活用した探究的な学習を行う。 ・年間３回の学校公開の中で、読書科の授業公開を全学級で行う。											
体力向上	**○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実**	・始業前15分間を活用した全校運動遊び	・年間35回以上の機会を設定し、多様な形式で数多くの運動遊びを経験させる。											
		・ストレッチタイムの設定	・毎日3時間目開始前に全校で一斉に行う。											
		・学期に2回のなわ跳び週間の設定	意識調査において、休み時間にすすんで外遊びをしているとの回答を80%以上にする。											

共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援学級と通常学級の交流学習・教員研修	・国語、算数の交流学習を行う。 ・特別支援全体研修、特別支援授業交流研修を年間1人2回実施する。											
	○ボランティアマインドの育成	・船堀ガーデンでの活動	・全校児童による花壇の維持運営を保護者ボランティアと共に行い、地域と一体となり進める。											
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・異学年交流「なかよし班活動」	・音楽、図工、家庭、体育の学習において交流を行う。 ・各種行事において共同学習を行う。											
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・自尊感情を大切にした生活指導 ・道徳学習の充実	・児童が集団に対して貢献できる場を設定し、自己有用感を育てる。 ・全学級道徳授業公開を行う。											
	○L-GATEの活用	・L-GATEにより児童の実態把握をすすめ、適時的な指導の推進	・年に1回校内でL-GATE研修会を実施											
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化 ・ひまわりルームの運用	・不登校児童とのＳＣ、ＳＳＷ連携率100％ ・指導記録をもとに問題解決につなげる。 ・学期に1回の不登校対策委員会を実施											
地域に開かれた学校の実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎日更新を行う（年間２００件の記事を掲載する。）											
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・アンケート結果を分析し1学期の評議委員会で報告する。 ・2学期に実施する。											
特色ある教育の展開	○働き方改革の推進	・月１回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間４５時間以下											
	○イングリッシュキャラバンの実施	・ALT以外のネイティブスピーカーと英語を通してコミュニケーションを取る。	・全学級において3学期に実施する。											